

英語

慶應義塾大学 理工学部 1/2

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

マーク式と記述式（大問5）の併用。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

2025年度に大問1・2で1,262だった総語数が、1,157になっているものの、大問2の[5]で語数が増えており全体的には変化なし。

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点

3年連続して大問5題構成。読解総合では、2024年度まで3年連続で出題されてきた「本文の要旨をまとめた英文中の空所を補充する問題」は昨年に続き出題されず、大問2では語句整序問題、脱文挿入問題、「本文の著者へのインタビューの英文中の空所を補充する問題」が出題された。大問5は、2024・2025年度では下線部を英訳する形式だったが、空所に英語を補充する、以前に近い形式に戻った。

新課程を踏まえた出題

大問2では、思考力を問うさまざまなタイプの問題が出題されている（詳細については大問分析参照）。

その他トピックス

和文英訳が3年連続で出題されていたが、記述式の空所補充に戻った。過去には、自由英作文（1989年度）、内容説明（1987年度）、英文和訳（1981・1982年度）などで本格的な記述問題が出題されたこともある。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1	読解総合	「嗅覚に関する4つの俗説」 (679 words)	同意表現選択、タイトル選択、内容一致。取り組みやすい設問が中心なので、取りこぼしのないようにしたい。[1]の③の shrivel は「縮んでしづが寄る」という意味。	標準
2	読解総合	「無為という現象についての考察」 (478 words)	同意表現選択、空所補充、語句整序、脱文挿入。[3]は、示された8つの語を並べかえて4番目と6番目にくる語を答える問題。[4]は、示された一文を本文中の最も適切な位置に入れる問題（選択肢は5つ）。[5]は、本文の著者へのインタビューである英文中の空所を補充する問題（4択で4問）。[3]～[5]はいずれも新傾向の問題であり、難易度は高め。	やや難
3	読解総合	対話文（男性が女性にプロポーズをする会話文、および友人からの祝福メッセージ）	同意表現選択、男性が女性にプロポーズをする会話文の完成。[1]で出題されているのは受験生にはなじみの薄い表現が多いので、文脈を手がかりに考える必要がある。Ms. Yagami と Mr. Hiyoshi はこれまで大問3の会話問題で登場している本学部ではおなじみの人物。過去問を通して2人の関係性を理解しておくと有利な設問も多い。	やや難
4	文法・語法	空所補充	理系分野で使用されることが多い語彙に関する問題。英語だけでなく、こうした分野の一般常識も必要となる。（D）の cooling agent は「冷却剤」という意味。	標準
5	その他	和文英訳（空所補充型）	短い日本語の文章を読み、下線部を空所補充の形式で和文英訳する。指示文はギリシャ神話のスフィンクスの謎かけで、「下記の英文中で既に使われている単語を使用してはいけません」とある点に注意が必要。	やや難

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

全体として、基本的な文法や語彙の知識、およびそれらの知識を土台とした英文の読解力が要求されている。文法や語彙についての十分な知識を身につけることに加えて、文脈に注意を払いつつ、説明文や論説文を中心にさまざまなテーマの英文を数多く読むようにしたい。また、空所補充や同意表現選択の問題では、選択肢に難解な単語や表現が含まれていることがあるので、類義語・同義語に注意しながら、語彙力を拡充しておくとよい。和文英訳問題は、標準的なレベルの問題を演習しておくことで、対応する力はつけられる。